

新刊紹介

雪の結晶図鑑

菊地勝弘・梶川正弘

北海道新聞社

2011 年 12 月発行, 2310 円

A5 版, 192 頁, ISBN 978-4-89453-629-6



待望の雪の結晶写真集である。中谷宇吉郎博士以来、伝統の雪結晶研究を牽引してきた著者らがこれまでに撮った数万枚の写真の中から 1600 枚を選び、地球上に降るであろう全ての雪結晶形を示す写真集である。しかも本書は、雪結晶の写真を単に並べた写真集ではなく、「グローバル」分類に基づいて雪結晶の写真を順に表示した図鑑である。動物図鑑や植物図鑑のように分類に従って順に載っている。

グローバル分類とは、中谷宇吉郎博士による「一般分類」(1949)や著者らの師である孫野長治博士による「気象学的分類」(1966)を進歩させて再構成した新しい雪結晶の分類表である。これまでの分類表は、日本に降る雪結晶形から主として作られたため、著者らが極域で発見した低温型不規則雪結晶を分類するには不都合があり、新しい分類表を作る必要があった。本書は、その分類表の再構成に合わせて出版された。そのため、日本でよく観測されるようないわゆる平板の六角の雪結晶(樹枝状、扇状、角板状結晶)だけでなく、南極(昭和基地、マクマード基地、南極点基地)や北極(グリーンランド、北欧、カナダ)など極域で著者らが発見し撮影した御幣状、矛先状、鷗状などの不規則型の雪結晶にも多くのページ数が割かれている。グローバル分類は 8 大分類, 39 中分類, 121 小分類に分けられているが、本書にはすべての分類の雪結晶の写真が載っている。こん

な形の雪結晶があるのかと初めて見る方は驚かれるであろう。しかも 2 枚を除いてすべてが著者らの採集、撮影であることも驚かされる。

本書は雪結晶には様々な形があることを知る上で貴重な本であるが、雪結晶を見た人が、その雪結晶の形を何と呼べばよいのかを調べる上でも、有用な図鑑である。それぞれの雪結晶写真の合間に解説文があり、分類法をわかりやすく解説していることも雪結晶名を知る手助けになるだろう。雪結晶に興味のある人には必読(必携)の本である。きれいな雪結晶写真を眺めるだけでも十分楽しい。

ところで、本稿の著者は、本書の主著者に学生時代に指導を受け、御幣状雪結晶の存在を知った。その後南極昭和基地で雪結晶観測をする機会を得て、初めてその御幣状雪結晶を見たとき、非常に感動したことを覚えている。写真で見て知っているということと実際に見たということは随分差があることを学んだ。本書で雪結晶写真に興味があった人は、実際に雪結晶を観察することをお勧めする。本書の雪結晶写真と対比できれば、さらに雪結晶に興味が深まるであろう。さらに進んでこの図鑑にない新しい雪結晶を見つけることができれば、大変な大発見になるであろう。

(大阪教育大学 小西啓之)

(2012 年 2 月 3 日受付)